



豊里

誰のが飛んだ。昔遊び楽しむ

学校支援ボランティア活動「竹とんぼ作り」は1月17日、豊里小・中学校で開かれ、児童らは昔遊びに親しみました。講師は、町内在住の志賀元一さん。志賀さんが、竹をなたで割るところから実演すると、児童はもの珍しそうに眺めていました。6年生は竹とんぼの羽根を製作。児童らは使い慣れない小刃と竹の感触に苦労しながら、作業をしました。講師から、全員に竹とんぼをプレゼントされると、みんな夢中になって飛ばし、高さなどを競い合っていました。

暖かい部屋で頭も体も健康に

「お茶飲み会」は1月24日、山吉田行政区コミュニティセンターで開かれ、15人が参加し、地域内の人たちと会話や運動を楽しみました。よねやまスポーツクラブの職員を講師に、運動教室も開催。参加者らは、講師の指導でストレッチと貯筋運動をしました。貯筋運動では、鍛えているところを手で触り、運動の効果を確かめながら、体を動かしました。暖かな部屋で口と体を動かし、楽しいひとときを過ごしました。



米山

9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします



迫

銀世界で若者が交流を深める

青年セミナー「スノーボード教室」(迫公民館主催)は1月21日、岩手県夏油高原スキー場で開かれ、町内から36人が参加し、ウィンタースポーツを通じて交流を深めました。教室は、迫町内で活動する若者の交流と親睦を深めることが目的。同日は、天候や雪質にも恵まれ、スキル別に4つのクラスに分かれ、インストラクターから指導を受けました。参加者らは、雪上でも移動のバス内でも、会話を楽しみながら親睦を深めました。



石越

剣士ら熱戦で寒さ吹き飛ばす

「第64回石越町剣道大会」(石越町剣道協会主催、工藤孝志会長)は1月21日、石越公民館で開かれ、町内の剣道愛好家約50人が熱戦を繰り広げました。試合前には日本剣道形の演武を実施。試合は紅白戦や年代別の個人戦で、日頃の稽古で身に付けた技術を競い合いました。小学生低学年の部では、本年度から剣道を始めた3年生同士が対戦。寒さに負けず、対戦相手に向かって一本一本元気に竹刀を打ち込んでいました。

交通死亡事故ゼロ7500日達成

「交通死亡事故ゼロ7500日達成表彰式」は1月30日、登米総合支所で開かれ、登米市交通安全対策協議会と登米警察署から葛籠淵地区コミュニティ推進協議会(千葉勝博会長)へ表彰状が贈られました。同地区は、1997年7月から交通死亡事故ゼロを継続しており、2018年1月26日に7500日を達成。千葉会長は「地域の絆を深めながら、さらに交通安全運動に取り組み、8千日と積み上げていきたい」と決意を述べました。



登米

郷土かるたで地域の学び深め

今年で29回目を迎える「新春郷土かるた大会」は1月14日、南方農村環境改善センターで開かれました。大会は、町内10行政区から約140人が参加。個人の部は未就学児・小・中学生が5部門54人で、団体の部は3行政区から4チーム19人で対戦しました。使われたかるたは、南方町の歴史や史跡名勝、特産物などが描かれた「郷土かるた」。参加者らは、競い合いながら、生まれ育った地域を学び、楽しい1日を過ごしました。



南方



東和

貴重な文化財を火災から守る

「東和町文化財防火訓練」は1月28日、東和町錦織「普慶院」で開かれ、地域の自主防災組織、消防団員、消防後援会員や婦人防火クラブ員ら、約110人が参加しました。防火訓練は、境内で火災が発生したことを想定。通報・消火訓練、非常時持ち出し訓練、消火器の取り扱い訓練などを実施しました。参加者らは、日頃の訓練と火災を出さないことの重要性を再認識し、貴重な文化財を火災から守ろうと、本番さながらに真剣に取り組みました。



津山

訓練を通じ防災意識を高める

「津山町文化財防火デー防災訓練」は1月28日、津山町柳津「麻崎神社」で開かれ、地域住民や関係者ら約60人が参加し、貴重な文化財を守るための初期消火や物品搬出の手順を確かめました。訓練は、近隣の山林から出火、神社に延焼の恐れがある想定で実施。119番通報・重要物品の搬出・初期消火などを演習しました。演習終了後、消防署員による応急手当講習を受講し、非常時への備えと防災の重要性を再認識しました。

冷たい白雪で熱い友情を育む

浅水コミュニティ運営協議会(羽生進会長)の「自然体験交流事業」は1月20、21の両日、秋田県横手市増田町で開かれ、浅水小4～6年生の児童28人が参加し、同市増田小児童と交流しました。同事業は、夏に増田小児童が中田町に訪れ、冬は浅水小児童が増田町に出向き交流。児童らは、本市ではあまり体験できない雪国ならではのかまくら作りやスキーなどで親睦を深め、夏の再会を約束しました。



中田